

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は8月下旬まで低迷していたが、最後の週で盛り返し、前年を少し下回る程度まで回復した。外商売上は好調で、前年を大幅に上回った。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・相次ぐ商品価格の上昇によって客単価は低下傾向だが、来客数が好調なため売上はほぼ前年並みである。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品単価の上昇によって売上の増加が続き、来客数の減少を補完できている。競合他社の出店が一時より落ち着いたため来客数の変動が少なくなり、売上が安定してきている。
	○	スーパー（財務担当）	単価の動き	・お盆の月のため、品質が良い物の売上が増加した。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、販売量共に良くなっている。比較的高単価の商品を多く扱っているものの、地元客によるまとめ買いの頻度が増加している。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・季節商材の売上が増加している。秋祭り用の商品の予約が入っている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	販売量の動き	・昨年も前年比120%と大きく売上が増加したが、今年も前年比115%と好調に推移している。特にお盆期間は、県外からの客やインバウンドが増加する時期であり、例年以上に売上が好調だった。ピークの4日間は、土産が前年比115%、飲食店が110%と非常に好調だった。
	○	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・広告効果もあってか、売上が前年と比べ2割ほど増加しており、値上げ率を差し引いても、1割強は増加している。
	○	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・来客数は微増しているものの、販売数が増加しない。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・お盆休みが長かったため遠方からの帰省客が多く、売上が好調だった。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・市内中心部で、建物の建て替えが増加してきた。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・商店街の通行量は国内外からの観光客増加により、右肩上がりである。夏場は地元の高齢者層の客が減少し、観光を目的とした若中年層の客が増加している。そのため、物販店は苦戦している一方、飲食、土産、宿泊観光は好調で、明暗が分かれている。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・再開発の遅延や中止が続出し、地域の活性化の気運が盛り上がらない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・祭りに関する人手がかなり増加している。イベントには人が集まるためにぎわってはいるが、価格上昇から財布のひもはかなり固いとみられる。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・多少入荷が増加している。ただし、希望する数量より少ないため、売上は前年と比べると減少している。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・酒類の消費量は、飲食店向けも家庭向けも共に減少している。健康志向もあいまって、なかなか売上が増加しない。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・価格上昇や猛暑による意識の変化で慎重さは持続しているものの、夏休みの影響もあり、全てを節約するのではなくメリハリのある消費をしている。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・仕入価格が高いため価格を下げる余力がない。客は購入数量を減らして生活を防衛するなどの買い控えも顕著であるため、現場の景況感は厳しい。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材は売れているが、それ以外の商品の販売が減少しており、総量としては変わらない。
	□	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・大型の主要商品の売上については、計画どおり推移している。残暑が厳しい状態が続いているものの、季節商材のエアコンの売上は落ち着いており、前年比110%で推移している。

	□	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・人気車種の受注停止が続いていることに加え、お盆期間の休業による営業日数の減少で販売期間が限られたため、受注台数が伸び悩んでいる。
	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・受注状況に大きな変化はない。
	□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・国内旅行の人数は微減しているが、インバウンド旅行者数が年々増加傾向にあり、全体としては好調に推移している。
	□	都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・先行きが不透明であり、停滞感がある。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・祭りの開催時期前後は売上が好調だったが、その後はタクシーの利用度が減少し、例年どおり横ばいであった。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・猛暑が続いているもののイベント実施の効果などもあり、来客数は前年同期程度で推移し、好調を維持している。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・原油高や為替の影響による価格上昇が続いており、必要最低限の買物はするものの、し好品の買い控えが続くなど、客の購買意欲が減少傾向にある。夏の暑さの影響から、客が買物へ行く機会も減少しているとみられる。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑と物価上昇により、お盆のお供え物を節約したいという人が多かった。お供えをする行事についても一度で済ませようとする人もいた。
	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・物価上昇による節約志向は高まっており、来客数にも影響が出ている。単価は上昇し続けているが、全てを価格転嫁することは難しく、物価上昇分を補えないため、結果として売上は苦戦している。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数は前年並みである。インフレのため売上は前年を超えたが、買上点数は減少している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・8月中旬頃までは例年を上回る良い調子であったが、それ以降は猛暑の影響によって来客数が激減し、非常に厳しい状態である。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・客の高齢化が進み、来店が困難になったり来店周期が長くなったりした方が増加傾向にある。
	×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・リニューアルに備えたショッップのクローズと猛暑の影響により、来客数が減少した。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。お盆までは前年並みで推移していたが、お盆以降急激に来客数、売上共に減少に転じ、前年割れとなった。
	×	コンビニ（総務）	販売量の動き	・3か月前まで前年比103%を超えていた売上について、今は何とか100%でキープしている。来客数が大きく前年を下回っているため、3か月前と比較して悪化している。また、前年開催された大規模イベントの反動もある。
	×	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年比では15%程度販売量が減少している。暑さによる外出控えや、客から災害、物価上昇の話題が多く聞かれ、購買意欲の低下がみられる。
企業動向関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・九州地区は地震の影響でインバウンドの数が減少しており、受注もやや低調ではあるものの、他地区の小売店からの受注は活発である。特に店頭での季節商材の回転が良く、比較的単価のものがよく売れている。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・価格転嫁交渉は完了した。ただし、販売価格の改定時期は下期となり、仕入価格の方が先行して改定するため、8～9月は利益が大きく下がる見込みである。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の売上は微減だが、地元スポンサーのCM出稿量が増加したため、全社としては微増である。
	○	税理士事務所	取引先の様子	・賃上げが続いているが、取引金額自体も上昇しているため、少し利益が上がった。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・特に目立った動きはなく、平調に推移している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格は据え置かれているものの、取引価格は下値で推移しているため、厳しい事業環境が続いている。

	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の設備投資や資材価格の動き等に変化が見られない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事が少ないため心配している。
	□	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・世の中の大きな変化がみられない。
	□	通信業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ほとんど動きがみられない。
	▲	化学工業（所長）	取引先の様子	・中東情勢の影響により受注量が春以降急激に増加したものの、現在は取引先にも陰りが見え始めている。結果的に需要の先食いであったと認識しており、全体の景気は改善しているとは言いがたい。
	▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・物価上昇による建築価格上昇と金利の上昇があいまって、建築関係の動きが鈍くなっている。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産の売却依頼も購入相談も時間を要するがとまらない。売主、買主ともに慎重さが増した。
	▲	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・原材料価格は高止まりか上昇傾向だが、売価転嫁が難しい状況は変わっていない。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	求職者数の動き	・例年どおり夏は求職者の動きが鈍り、変化が起きづらい。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者の動向により景気が左右される。
(四国)	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人数に大きな動きは見られないが、事務関係を中心に事務職の求人数が減少傾向にある。特に、留学生の高度人材採用については非常に厳しくなっており、日本での就職を希望する学生数に対して求人数が圧倒的に少ない。
	▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内の企業では求人数が増加しているが、実際に採用が充足している企業は少なく、どの企業も人手不足が続いている。現場スタッフとしてのアルバイト、パートスタッフはもちろんのこと、会社の次世代を担う可能性のあるコア人材の採用にも苦戦しており、慢性的な人手不足への対応方法が見つかっていない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き	・材料費や商品価格がかなり上昇しているという話をよく聞く。値上げせざるを得ない状態になってきているとみられる。
	×	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・物価の上昇等により持ちこたえられない事業所が多く、商品への価格転嫁や人員の経費削減で人員整理をする企業がある。